

防災減災学術連携委員会（第 25 期・第 3 回）

議事要旨

日 時：令和 3 年 4 月 30 日（金）13:00～15:00

会 場：ZOOM を用いたオンライン会議

出席者： 米田雅子（委員長）、田村和夫（幹事）、今村文彦、畝本恭子、大西隆、菊地優、小池俊雄、齊藤大樹、鈴木康弘、高橋良和、寶馨、竹内徹、永野正行、中村尚、平田直、目黒公郎、森口祐一、安村誠司、山本あい子、山本佳世子、吉原直樹、若尾政希、和田章（23 名）

事務局： 薦田有紀子、小山堯、藤井智宏

議 題：

- 1) 前回議事要旨案の確認
- 2) 防災減災学術連携委員会（第 25 期）の体制と活動について
- 3) 府省庁・防災学術連携体との連絡会について
- 4) ぼうさいこくたい 2021 への参加について
- 5) 今後の防災学術連携シンポジウムのテーマについて
- 6) その他

配付資料：

資料 1 防災減災学術連携委員会（第 25 期・第 2 回）議事要旨（案）

資料 2-1 委員リスト

資料 2-2 防災学術連携委員会の活動

資料 3-1 第 3 回防災に関する学術会議・学協会・府省庁の連絡会（趣旨 仮案）

資料 3-2 第 3 回防災に関する学術会議・学協会・府省庁の連絡会（プログラム 仮案）

資料 4 ぼうさいこくたい 2021 ちらし

参考資料 1 記者会見資料：防災学術連携体挨拶

参考資料 2 日本学術会議会長談話「東日本大震災 10 年と日本学術会議の責務」

議 事：

議事に先立ち、委員と事務局メンバーの自己紹介があった。一部の委員より資料 2-1 の所属の記載変更の指摘・連絡があった。(資料 2-1 を参照)

またメールアドレスを委員会で共有したい旨の提案が事務局より出され、特に異議はなかった。

#### 1) 前回議事要旨(案)の確認

資料 1 により、前回議事要旨(案)について田村幹事より説明があり、確認された。

#### 2) 防災減災学術連携委員会(第 25 期)の体制と活動について

米田委員長より、資料 2-2 を用いて、東日本大震災後の学術連携活動について説明があり、日本学術会議と防災学術連携体が連携して、災害後の報告会等の対応、シンポジウムの開催、学会間や政府・自治体等関係機関との連携活動を進めてきたことが報告された。また東日本大震災 10 年にあたっての日本学術会議会長談話が 3 月 11 日に出されたことの報告もあった(参考資料 2)。以上に関連して、以下の補足説明や意見が出された。

- ・防災学術連携体は会員の会費で活動しており、他組織からの大きな資金援助は受けておらず、独立した活動・運営ができています。
- ・防災学術連携体はこの 4 月から一般社団法人として活動しており、正会員の他に新たに特別会員と学識会員の制度を設け、会費をいただく予定としている。今後本委員会委員の先生方にもできれば学識会員になっていただきたい。
- ・本委員会は、日本学術会議と学会との防災減災にかかわる連携活動として進められてきた。学術会議の発信力と学協会の活動とを結びつけ、日本の学のあるべき姿を示していくことが必要。
- ・学術的検討が社会を変えていくエンジンになり得る。

#### 3) 府省庁・防災学術連携体との連絡会について

資料 3-1、3-2 に基づき、第三回「防災に関する日本学術会議・学協会・府省庁の連絡会」の趣旨とテーマ・プログラム案について、米田委員長より説明があり、テーマ案を「激化する気象災害への備え」とする方針が了承された。関連して、以下の意見が出された。

- ・災害対策基本法改正の要点についても議論できるとよい。
- ・気象災害としては、豪雨・暴風・高潮の他に、豪雪、熱波、寒波などもある。

・国の施策として、災害対策施策と国土強靱化の2つの流れがあり、両者を整理して考えることが必要ではないか。

#### 4) ぼうさいこくたい2021への参加について

田村幹事より、本年度の防災推進国民大会の開催が11月6日、7日に岩手県で開催される予定で、出展者公募案内が5月中をめどにだされることの説明があり(資料4)、日本学術会議と防災学術連携体が共催で過去に出展したシンポジウム等のテーマが説明された。

これを受けて、今年度の応募テーマについて議論があり、今年度は「防災教育と災害伝承」に関するテーマで応募することになった。なお応募書類提出等は米田委員長一任とする。

関連して出された主なテーマ・意見は以下のとおり。

- ・震災復興に関するテーマ
- ・防災教育と災害伝承
- ・人文社会系も発信すべき
- ・地域生活圏でのレジリエンス
- ・文化財の保護
- ・記録・記憶としての災害伝承
- ・防災に関する学校教育(最新情報の提供)
- ・災害教訓の伝承
- ・「(開催地である)釜石のこれから」の視点
- ・防災教育の対象は多様(学校・社会人・専門家向け)
- ・防災情報リテラシーの向上も重要

#### 5) 今後の防災学術連携シンポジウムのテーマについて

今後の防災学術連携シンポジウムに関して以下の意見があった。

・教育内容をテーマとし、シンポジウムを継続的に開催してはどうか?何をどう伝えるのかについて、具体的に扱うとよい。

・今後の少子高齢化時代における防災体制をどう考えるべきか、は重要なテーマ。インフラの整備・維持管理など公助には限界がある。防災産業の育成とそのため体制などの課題あり。

・地域にスポットをあてて、取り組み情報の共有化を図る。

- ・感染症対策として、インフラの正しいあり方を考える。
- ・感染症下での避難問題。
- ・発災時のコミュニティーや関連する土地情報に関する社会制度など、事前に復興方法を考えておく。
- ・日本の取り組みの海外への発信。
- ・災害における「想定外」をどうとらえるか（人文社会系の内容も含めて）。

#### 6) その他

- ・次回委員会予定：

8月3日 13時～16時（府省庁・防災学術連携体との連絡会として開催）

⇒ WEBを含めたハイブリッド方式での開催となる見込み

以上